次のとおり令和7年度市民活動支援センター第2回運営委員会の報告を致します。

会議名	令和7年度 第2回 調布市市民活動支援センター運営委員会								
開催日時	令和7年5月15日(木) 午後7時～9時								
会場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき								
出席者	委員名	○	安藤雄太	○	村上むつ子	○	平澤和哉	○	増田健治
		○	水田征吾	○	大槻昌美	欠	石井洋子	○	児山宣孝
		欠	浜本雅樹	○	石正房江	欠	毛利勝	○	ニファ・ジヤマンナ
		○	小松明日香	○	松永佳子	欠	吉田真也	欠	佐藤晋太郎
		○	田島誠						
	事務局	○	北島正也						
司会	事務局/運営委員長		記録		事務局				

社会福祉法人社会福祉協議会市民活動支援センター運営要綱（以下、要綱）第10条第10項「運営委員会は委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数で決する。」の規定に基づき、12人の出席により運営委員会は成立していることを確認した。

1 1分間近況報告（各委員） 19:00～19:30（30M）

【承認事項】 19:30～20:20（50M）

2 令和6年度事業報告（案）の承認・・・・・・・・・・資料①

事務局) 令和6年度の事業総括として、市民活動支援センターが中長期計画方針に基づき、日常の相談業務やイベント実施を通じて、多様な主体と連携し、市民に開かれたセンターを目指して事業を実施したことを報告した。

委員) えんがわファンドの助成を受けた団体から返還金があった点について、確認したい。

事務局) 令和6年度においては、全5団体から助成金の返還があった。内訳として、予定していた金額より安価に事業実施できた団体が3団体あった。また、ある1団体は講座開催費を申請していたが、予定回数に満たず助成額の6割程度の返還となった。また、別の1団体は、予定より早く人的資源、経済的資源が集まり、当初令和7年度以降に予定していた法人化が前倒しとなり、当初の助成対象事業を実施しない形となったため、助成金を全額返還する結果となった。

委員) 市民活動支援センターとして、団体のステップアップのサポートや、助成金の使途の変更時の相談等、助成事業実施途中でセンターは団体と十分に関わることはできていたか。

事務局) 団体のステップアップに関しては、約半数の団体には調布 FM のラジオ出演、広報誌えんがわだよりでの情報発信等広報面での支援を行った。各団体から助

成事業の途中経過ではなく事後報告のパターンが多かった。センターとしても少し関わる必要があったように感じている。

委員) 返却額が数百円という金額の団体もあったことが報告されたが、えんがわファンドの目的が団体の活動をより良く伸ばしていくことであると考え。もし返還金が生じる見通しであれば、団体の活動を伸ばしていくために「こんな使い方を考えてはどうか」といった助言をセンターができることよい。そういう相談を積極的に受けていく姿勢は大切である。逆にえんがわファンド助成金が足りないのであれば、他の助成金プログラムを紹介するといった役割も求められる。そういった支援が事業報告書に載っていくことよいと思う。

委員) えんがわファンドの事業報告については、結果の分析のみならず、どういった視点で助成を行ったのか、なぜ金額を増額したかあるいは返還したかなど、5年～10年後に入れ替わる新しい職員やメンバーがそのことを分かるように分析を残してもらえると良い。えんがわファンドに限らず、新しい事業については特にそうした視点を意識して事業報告を行ったほうが良いと思う。

委員) 事務局が課題として挙げる「サポーター会費の寄付額の減少について」事務局では原因をどのように捉えているのか。

事務局) えんがわファンド助成金事業の認知そのものに加え、同助成金が寄付によって成立していること、ちょうふチャリティーウォークをはじめ、寄付物品の益金、サポーター会費など内訳も伝わっていないように感じる。

委員) 会員というのは、どういう団体が多いのか。

事務局) 団体としては、NPO 法人を始めとした市民活動団体やサークル、企業・商店といった事業者等様々である。

委員) ファンドで投資した活動団体が様々な社会課題に取り組む様子や結果を見て、寄付の賛同者が増えていくというプロセスを実現するために何か手立てはあるのか。

事務局) サポーター会員になると活動スペースはばたきが2ヵ月前から予約できるというメリットがあるので、会員になっている団体が少なからず存在していると思われる。

委員) 助成金を支える中心的な経済的資源は寄付である。この寄付が枯渇してしまうことに危惧があるのであれば、今以上に寄付を募っていかなくてはならない。大きな課題だが、今得ている寄付はどうして集まったのかという点も同時に検討すべき。寄付者が寄付して良かったという思いになれるような発信をしなくてはならないが、現状は伝わっていないと見受ける。

また、寄付者はえんがわファンドに寄付したいと思っているのか、活動団体が取り組む社会課題やテーマに対して寄付をしたいという寄付者の意向が汲み取られていないことも考えられる。えんがわファンドの宣伝・広報をどう作り変えるかは大きな課題と感じている。

また、寄付者の中には遺贈的な寄付は今後も増えて行くと思われる。この時、寄付者が目的に賛同できるようなテーマ設定も必要ではないかと考える。自分が出したお金がどのように生かされているのかがより明確化されることが必要である。

- 委員) これらを総じて、助成金(寄付)が何になったのかということを発表する場はないのか。
- 事務局) 助成金の使途や取り組みたい社会課題をプレゼンテーションにて発信する場はあるが、報告を行う場は現在ない。
- 委員) いま議論されている課題を解決するための案を作る場がこの運営委員会という考え方でよいか。
- 事務局) 中長期計画にも重ね合わせ検討した内容を次第の4で説明させていただき、意見をいただきたいと考えている。
- 委員) 数名の運営委員と事務局がプロジェクトチームとして課題解決に向けた議論を行い、それを運営委員会に挙げていく形がよいのではないかと。
- 委員) 調布まち活フェスタをはじめ、機会を活用できていない様子も感じる。
- 委員) サポーター会員の減少の要因としては、広報活動の不足が挙げられる。サポーター会員に対するコミュニケーションも不足していると感じる。えんがわファンドの助成を受けた団体が調布の中で活躍・活動を通じて好循環を作っているかが伝えきれていないように思う。中長期運営方針の1つである「えんがわファンドによる寄付文化の醸成」に今年度は力を入れて良いと思う。
- 委員) えんがわファンド助成金を設立し20年が経過した。同ファンドとしてどういった団体を応援したいのかという点も明確にしても良いのではないかと。具体的には、①「人はいるがお金がない」というスタートアップの団体、②今ある活動を拡大したい団体。支援対象を明確にすると結果として、ファンド自体も普及できると思う。
- 委員) どちらかにだけでなく、5対5など割合で分けても良いのではないかと。
- 委員) より多くの団体が参画するのであれば、プレゼンテーションでなく書類申し込みにした方が団体の負担は少なく、ハードルが下がるのではないかと。
- 委員) プレゼンテーションのみでなく、昨年度に助成を受けた団体が成果発表をする場が必要ではないかと。
- 委員) 寄付者が参加でき、かつ一般参加者も入れるような集まりが必要と考える。
- 委員) えんがわファンド助成を受けた団体の中からMVPを選び、表彰するような式典があっても面白い。
- 委員) 「えんがわファンド」のコミュニティを設け、繋がりやすい状況を作っていくことは有用でないか。
- 委員長) この数年は、ふくしの窓(調布社協広報誌)、えんがわだより(センター広報誌)といった広報媒体での寄付者の紹介や助成金の使途報告を行っていた。コロナ前は、えんがわファンドの助成を受けた団体を集めて交流会を行っていたが、昨年度からプレゼンテーションを開始したこともあり、交流会は実施できていない。過去にはえんがわファンドのリーフレットを作成し、それを各種イベントで配布した結果、寄付額も跳ね上がった実績がある。今年2/28(土)に「えんがわフェスタ×えんがわファンド交流会」を開催し、新旧の助成団体を集め、成果発表の機会を検討したい。このほか、こういった形がよいかは今後の委員会でさらに検討の必要がある。

3 令和6年度資金収支決算報告(案)の承認・・・・・・・・・・資料②

事務局) 市民活動支援センター拠点区分(委託)、ボランティア活動推進拠点区分(補助・自主)について説明した。

委員) 委託金返還金の残額が気になった。返還金が出た要因は何が考えられるか。

事務局) 予算執行においては委託元と必要に応じ協議しながら行っているが、令和6年度はコミュニティルームが新設されたため、清掃業務の外部委託業務が実態には少し回数が少なく済んだこと。委託開始から20年目に達したため故障や不具合を想定し、修繕費を手厚く予算を計上していたことが由来すると考える。

委員) 人件費はセンターの非常勤職員しか予算計上されていない。しかし、実際には正規職員2名分が必要な事業であると理解するが、支払われないのだろうか。

事務局) ボランティア活動推進事業は社協の中心的な事業の1つであり、正規職員の人件費は社協の会計に計上されている。一方で委員の指摘する点は、市民活動支援センターの運営にも少なからず関わるため、市民活動支援センターの事業の側面から見ると非常勤職員のみで運営しているように見えることへの疑問を感じてのご質問と理解する。

委員) 行政との関係での会計、社会福祉法人会計としての基準における整合性が重要になってくる。

行政からの補助金が一括で納入されることもあり、その中から人件費を割り当てないとならないのではないか。

委員) 一見すると、非常勤職員分だけで運営しているように見えてしまう。

委員長) ほかの委員から質問はないか。

委員) 初めて参加するのだが、この運営委員会の場で何をどこまで意見を発言して良いか分からない。

重点的に意見を募りたい点が明らかになると発言がしやすい。

委員) 運営母体は社会福祉法人社会福祉協議会なので、社会福祉協議会が事業、会計ともに運営責任を持つ。一方で、社会福祉協議会の良さとして多様な市民が参画して、運営協議する点を重視している。このため、市民が参画する運営委員会を組織し、事業報告・会計報告にあえて報告事項ではなく、承認事項を設けている。

委員) 民間企業で言う株主総会とは異なり、可否を決めるのではなく、この運営委員会は、「より良くする」という観点で意見を求められる。強力なアドバイザリーボードのような役割と理解している。このため、この場で得られた承認事項は大きな意味を持ち、社会福祉協議会はこの委員会の意見に敬意を表しながら運営を継続していく。行政の委託事業としての側面も問われる。

委員) 例えるならば、企業であれば、売り上げの目標にどのように到達するかと目的・目標が明確にある。この場では、社会福祉協議会においては最終的に行政に承認を受けるという理解で宜しいか。

委員) 承認を受けなくてはならない。事業委託を受けているため、行政の監査、議会の決算報告で認められるものでなければならない。

委員) 市民活動支援センターが活発だと判断されるのはどういう状況と事務局は認識しているか。

事務局) アンケートを通じた満足感の確認。イベント、日々の運営における参加者数、総じて市民の満足感といった総合的な評価になると存じている。

委員) それであれば、広報費はもう少し確保して、市民へアピールすべきである。

事務局) 広報費に関する指摘、市民に対する発信をしていくということは重要な役割だと捉えている。

限られた財源の中で、どれほどの効果や影響をもたらせたかという点は問われる内容と存じており、現在行っている事業報告は非常に重要だと理解している。

委員) 事業報告の成果に応じて、予算は増額するのか

事務局) 次年度予算を計上する段階では、行政と折衝をしながら検討していく必要があるし、実績や客観的評価、数年先を見据えた働きかけの必要性なども伝えていくことが重要だと考えている。

委員) 税収入の減収も前提としてある。このため、必要なら必要なだけというわけにもいかない。このため、何がどれだけという客観的な評価が必要になる。そこで、担当者が勝手に決めたのではなく、法人として責任を持つ。その前には我々、運営委員会が協議・議論を行い、市民の視点で事業を確認、承認するというプロセスが重要と言える。

委員長) 以上、令和6年度事業報告(案)、令和6年度資金収支決算報告(案)を承認したい。

他委員) 満場一致により、承認された。

○今後の予定

5/15(木) 第2回運営委員会(本日)

6/3(火) 理事会

6/19(木) 評議員会

【報告事項】20:45~20:55(10M)

4 中長期運営方針・7年度事業計画について説明

資料③④

事務局) 重点事項として、(1)市民地域参加の推進、(2)パートナーシップの強化、(3)寄付文化の醸成、(4)居場所サードプレイスの周知と推進、(5)災害時に備えた支え合いの裾野の醸成の5つの柱がある。令和5年(2023)~令和9年(2027)の推進期間において、令和5年、令和6年は特に「(4)居場所サードプレイスの周知と推進」に注力してきた。

令和7年度は、事業報告内でも指摘があった「えんがわファンド事業のサポーター会員の減少」も鑑み、「(3)寄付文化の醸成」を目指した事業展開を予定している。

【協議事項】20:55~21:00(5M)

5 中長期運営方針の中間評価について

資料⑤

事務局) 今年度は、中長期運営方針(2023-2027)の折り返しの年となる。これまでの2年を振り返り、以降の後半期に行う事業やその内容を検討していきたい。

今年度より参画いただく運営委員もいらっしゃるので、これまでの事業報告や経過についても説明が必要と考える。

この場で全ての資料に目を通す時間が持てないので、第三回会議に向け、各委員より欲しい情報があれば、次回会議までに一報をいただくようにしたい。

委員長) 時間の都合もあり、次回委員会の開催に向け、各委員の得たい情報を事務局を通じて、確認する期間を設ける。

この点は、あらためて事務局より発信を行っていただく。

6 今後の市民活動支援センター運営委員会の開催日時と議案について

6月 7日(土) 13時00分～18時00分【えんがわファントプレゼンテーション】※任意参加

7月13日(日) 10時00分～12時00分【第3回運営委員会】